

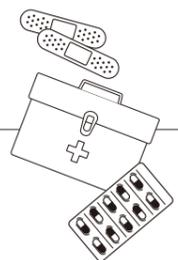
特別養護老人ホーム いなほの里

住所：〒349-0215
埼玉県白岡市千駄野663-1

☎ 0480-90-5557

受付時間 9時から18時まで

入居対象 要介護3から要介護5の認定を受けている方で常時介護を必要とし、在宅での生活が困難である方がご利用いただけます。
いなほの里では、寝たきりの方、認知症状のある方、あるいは終末期の方など幅広い心身状態の方に生活していただいています。



理事長
山崎 文博

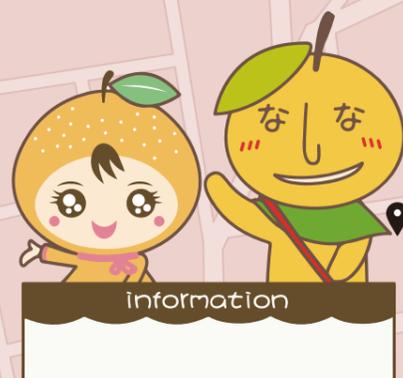


2002年に定員数92名で開設し、今年で20年を迎えました。現在は、いなほの里から枝分かれたサービスとして、居宅介護支援、訪問介護、看護小規模多機能、訪問看護、有料老人ホーム、福祉用具、調剤薬局などを運営しております。いなほの里は“高齢者の生活の場”としてだけではなく、認知症であっても一人暮らしでも、高齢の方ができるだけ長く住み慣れた家で安心して暮らし続けることができる街の介護システムの中心になることができるよう心掛けています。

編集後記

広報委員会 岩崎

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。本年も安全で確実なわかりやすい医療を提供していきます。皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。



taylor shop

Shiraoka Central
General Hospital

used car dealer

conveni

医療法人社団 埼玉育会
白岡中央総合病院

〒349-0217
埼玉県白岡市小久喜938番地12

TEL: 0480-93-0661
FAX: 0480-92-8462



Instagram更新中!

目で見て楽しい情報をお届けしています。いいね!フォローお願いします。



Facebook ページ公開中!!

白岡中央総合病院のことを、より身近に感じていただけるようFacebookのページを公開しています。ぜひ、ご覧ください。



白岡中央総合病院 公式ページ

白岡中央総合病院

検索

<https://www.scghp.jp>



きざはし105 発行:白岡中央総合病院/発行責任者:橋本 視法/
発行日:2023年1月15日/編集:広報委員会

医療法人社団 埼玉育会
白岡中央総合病院

病院理念 「安全で確実な
わかりやすい医療」

kizahashi

きざはし

105

2023年1月15日発行



謹賀 新年





新年あけまして おめでとうございます



院長 橋本 視法

あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

新型コロナウイルスの感染拡大から既に3年が経過しようとしています。依然、予断を許さない状況が続いています。昨年も世界的に新型コロナウイルスにより大きな影響を受けた1年でありました。病院も全力で感染防止に努めた結果、幸いにも大きなクラスターを発生させることなく感染をコントロールすることができました。同時に、通常診療も最大限に維持することができ、救急医療ならびに地域医療に貢献することができたと思っております。地域の皆様には大変なご不便をおかけすることもあったかと思いますが、この場を借りましてお詫び申し上げますとともにご協力に深くお礼申し上げます。

また、昨年は、相変わらずの自然災害、急激な円安のほか、ロシアのウクライナへの侵攻、安倍元首相銃撃など衝撃的な出来事も起こりました。

このような中で私たち白岡中央総合病院は、今年度は、『不易流行 Being and Doing』をスローガンに、『「生きる」を変える』という私たちの「不易」を堅持しつつ、「流行」という名の新しい価値の創造を追求しています。そして令和7年度を目標としている病院の新築移転の計画、準備も白岡市とともに着々と進めているところです。

新型コロナウイルス感染拡大だけでなく、大規模な自然災害、世界各地における地政学的リスクなど、世の中はこれまで以上に不確実性が高まっており、医療介護分野においても根本的課題が露呈されました。一方で、新型コロナウイルスの感染対応においてもデジタル・トランスフォーメーション(DX)によるさまざまなイノベーションが生まれました。今後、医療介護分野でも、DXの活用は不可欠であり、大きな変化の中で素晴らしい医療を提供していくためには、不易を見失うことなく既存の医療介護サービスの延長線上にはない価値を創造していくことが必要と考えています。

ポストコロナを見据えて、そして新病院移転を目指して、まだまだ多くの困難が山積ですが、素晴らしい病院を作るため全職員の力を結集して参りたいと思っています。

本年も皆様のご指導とご支援をよろしくお願いいたします。



謹んで新春のお慶びを申し上げます。
旧年中は、格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。



事務長 立川 敏章

依然として続く新型コロナウイルス感染症の影響のある中、地域の皆様には病院運営に様々なご支援・ご協力をいただきありがとうございます。

病院運営におきましては、新型コロナウイルス感染への対応のみならず、世界的に不安定な情勢による様々な影響に対して、どのように対応していくかが大きな課題となります。そのような中で重要となるのは、人と人のつながりの大切さや感謝の気持ちであり、それを忘れずに様々な工夫や取り組みを行いながら、安心・安全で質の高い医療を今後

も提供してまいりたいと思います。

また、病院新築移転計画につきましても、より本格的になる年でもあります。院内外の関係各所との連携を図りながら、また、地域の皆様のご協力を頂きながら、着実に進めてまいります。

これからも皆様とともに地域の医療の更なる充実を図るべく、職員一丸となって取り組んで参りたいと思います。

本年も皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新年あけましておめでとうございます



看護部長代行 佐藤 真紀

昨年も感染症対策やワクチン接種など、新型コロナウイルスへの対応を余儀なくされた年でありました。変異を繰り返す新型コロナウイルスですが、これまでの行動自粛から緩和され、経済活動を回復させながら「Withコロナ」に向けて世の中が動き出しています。常に気は抜けませんが、日々コロナ対応に追われ、当院の職員も経験から学んだ事も多くありました。振り返りを行い、行動を修正して私たち医療従事者も勇気をもって前進して参りました。しかし、これは決して自分達の努力だ

けではなく、地域の医療従事者の皆様をはじめ、患者様また御家族様など沢山の方々のご協力があって頑張ってきた事に、改めて感謝申し上げます。2023年もこれまで同様、感染対策を徹底しつつ地域の皆様の健康、医療、介護を支えていきたいと思っています。

看護部におきましても、今後も自己研鑽を積み安心安全を心掛け、何よりも誠実に看護を実践出来るよう努力して参りたいと思っています。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

コラム きざはし：医療安全連載第9回

『医療安全推進月間』の取組み

～患者間違いを防ぐ取組みへのご理解、ご協力のお願い～

(専従医療安全管理課長)

渡邊 幸子



当院では2022年11月21日～12月21日までの1か月間を『医療安全推進月間』と称し、患者間違いを防ぐ取組みを強化するキャンペーンを実施しました。元々は厚生労働省が実施している『医療安全推進週間』の取組みを参考に、活動期間を1週間ではなく1か月として当院が独自に取り組んだ活動です。

日常の診療において安全な医療を提供し患者さんの安全を確保することは、私達医療従事者の責務であり、そのために日々、安全管理に努めています。しかしながら、これまでこのコラムでお伝えしているように人間が関わる業務において人為的要因によるミスは防ぎ得ないこともわかっています。それは医療においても例外ではありません。日本における医療安全の取組みが始まったキッ

カケの医療事故は『患者取違い事故』でした。私達はこのような事故を起こさないために、検査や処置、注射などの際にはお名前の確認をさせていただき、患者間違いが発生しないように細心の注意を払っています。お名前を確認させていただく場面において、苗字だけだと「佐藤さん」や「鈴木さん」など同姓の患者さんを識別することはできません。フルネームをお聞きしたとしても稀にいる同姓同名の患者さんで取違いミスが起こるかもしれません。これらのことから、『医療安全推進月間』では、外来患者さんには、お名前(フルネーム)だけでなく生年月日も確認させていただくことにしました。入院患者さんには氏名識別のために装着していただいているリストバンドによる確認を徹底しました。右の2枚が期間限定で掲示した患者さん向けのポスターです。

医療安全+推進月間

令和4年11月21日(月)～12月21日(水)

\\ 教えてください \\

お名前 + 生年月日



患者取り違え防止のため、
その都度おたずねします。

医療安全推進部会

●患者様向けポスター

もちろん、医療安全の取組みは期間限定のものではなく永続的なものです。職員の安全意識をさらに高める目的で『医療安全推進月間』を実施しましたが、推進月間終了後も引き続き、外来患者さんのお名前と生年月日の確認、入院患者さんのリ

医療安全+推進月間

令和4年11月21日(月)～12月21日(水)

\\ 確認させてください \\

お名前 + リストバンド



患者取り違え防止のため、
その都度おたずねします。

医療安全推進部会

ストバンドによる確認を徹底していきます。診察、採血、注射、X線撮影、CT・MRI検査などあらゆる場面で何度もお名前、生年月日を聞かれ面倒だと思われるかもしれませんが、患者さんご自身の安全を守るため、ご理解とご協力をお願いします。

※厚生労働省の『医療安全推進週間(11/20～26)』とは、「患者の安全を守る」ことを中心とした総合的な医療安全対策を推進するため、2001年から各関係者の共同行動を「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動(ペイシエント・セーフティ・アクション)」と命名し、様々な取組みを推進しています。その一環として、医療機関や医療関係団体等における取組みの推進を図り、また、これらの取組みについて国民の理解や認識を深めていただくことを目的として、11月25日(いい医療に向かってGO)を含む1週間を「医療安全推進週間」と定めています。

「自宅内での転倒」について その2

前回に引き続き、自宅内の転倒についてお話させていただきます。前回のお話では、転倒原因の一つである「内的要因」についての説明、予防の体操を説明させていただきました。今回は、もう一つの原因である「外的要因」について説明させて顶きたいと思ひます。「外的要因」は、段差や地面が濡れていたなど、転倒の原因が生活環境にあるということです。

外的要因の例

- ・敷物のわずかな(数センチの)段差につまずいた
- ・毛足の長いカーベツに足をとられた
- ・フローリングの床ですべった
- ・電気コードや延長コードにつまずいた
- ・照明が暗くて足元をあやまった
- ・靴下が畳の上ですべった



「外的要因」である生活環境の改善方法については、「内的要因」よりも改善することが容易といわれています。転倒事故の発生場所は自宅が約半数を占めているといわれており、今まで転倒されたことがなかつた方でも転倒予防として効果が期待できます。今回はいくつかポイントを説明していきたくと思ひます。

①階段や段差には手すりを設置する。

段差は、足の筋力が低下してしまうとつまずきや膝折れ(膝に力が入らず“カクツ”と折れてしまう現象)が生じやすくなり、転倒の危険があります。そのため玄関や階段に手すりを設置し、腕の力で補助できるようにしましょう。また玄関などの高さのある段差では、一段段差を追加することで楽に昇り降りをすることができます。

玄関に手すりや段差を追加した例



廊下の明かりの例

②足元にはライトを設置して明るく見やすくする。

部屋や廊下が暗いと足元が見えにくく、小さな段差や落ちてくるものにつまずきやすくなってしまいます。夜間の寝室は常夜灯の点灯、廊下にはコンセントにさすタイプの光源を設置することで足元が見やすくなり、転倒リスクを減少させることができます。

③廊下やリビングの通り道に物を置いたり、電源コードを通したりしない。

床に放置した新聞や雑誌などで足が滑って転んだり、電気コードに引っかかって転倒してしまったりする危険があります。居住空間は常に整理整頓、特によく通る床にはなるべく物がなない状態を作ることが大切です。



④小さな段差を減らす

カーベツや敷居などの小さな段差につまずいて転倒してしまうこともあります。段差予防のシートやスロープの設置が効果的です。



小さな段差をスロープに変更した例

⑤濡れている場所を作らない

洗面台や脱衣所など、床が濡れてしまう場所は滑りやすいため転倒リスクがあります。吸水性の高いマットに変更するなどして、足裏が滑りにくい環境にしましょう。

ここに挙げた方法は、すぐにできるものもあれば、専用の物品購入が必要なものもあります。ご自身の生活環境に応じた方法を選択していただき、自宅での転倒予防を行っていきましょう。

現在、白岡中央総合病院では、ぴあ道場(介護予防教室)・ぴあカフェ(オレンジカフェ)を開催しています。リハビリテーション専門職がテーマごとに講義や体操、創作活動を行っています。ぜひご参加をお待ちしております。

ぴあ道場(介護予防教室)

1月20日(金) / 3月17日(金)
「肩について」 / 「転倒予防について」

身体の仕組みを勉強しながら一緒に運動をしていきましょう!

ぴあカフェ(オレンジカフェ)

2月17日(金)
「千代紙での箸袋作り・認知症の講義」

指先を使って認知症予防。頭に刺激を!

定員: 6名(事前予約制) 参加費: 無料 会場: リハビリテーション室
時間: 14:00 ~ 15:00
申し込み・問い合わせ: 白岡中央総合病院リハビリテーション技術科(TEL:0480-93-0661)
※感染対策の観点より、新型コロナウイルスワクチン接種済みの方、当日マスクの着用可能な方がご参加できます。

リハビリテーション技術科 地域包括ケア介護予防チーム



テーマ

ご自宅での療養生活を支えるということ

コロナ禍で入院中の面会が難しい状況が続いています。その影響もあり、ここ数年、「早く家に帰りたい」「会えなくなってしまうから家で看たい」と自宅で過ごすことを希望する方が増えています。しかし、病状が不安定であったり、体に管が入っていたり、点滴が必要だったり、在宅酸素をつけることになったりと、ご本人、ご家族にとっては「何かあったらどうすれば良いのだろう」と大変不安な場合も多いのではないかと思います。

そこで、白岡訪問看護ステーションでは、日頃



の体調や医療処置の管理をご本人やご家族と一緒にいき、緊急時には夜間や日曜日、祝日も24時間、看護師に連絡し相談できる体制を整えています。必要な時にはもちろん訪問することもできます。実際には、現在訪問看護を利用されている方のうち約75%が24時間対応可能な体制となっています。

ですが、本当に必要なことは、看護師が離れている時でも、ご本人、ご家族が主体となって生活できるよう自信や勇気を与える関わりを持つことだと思っています。皆様が本来持っている力を発揮しセルフマネジメント力が高まるよう、必要な知識、技術をお伝えしながら補佐的に援助していくことが大切です。これからも、困った時に振り向いたら顔が見えるところにそっと控えていて、こんな風に過ごしたいという皆様の思いに寄り添い支え続けていけたらと思います。

白岡訪問看護ステーション 管理者
訪問看護認定看護師 中村 由美子

訪問看護へのご相談は、入退院支援課、または直接、
白岡訪問看護ステーションまでご連絡ください。

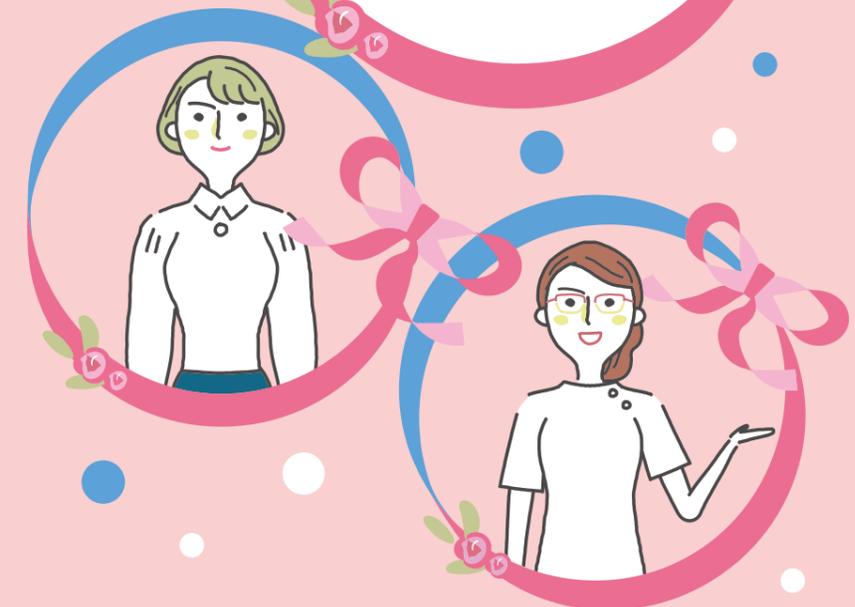
白岡訪問看護ステーション TEL: **0480-93-5054**

2023

日曜乳がん検診 予約受付中

2023 2/26

予約時間
9:00~11:45



マンモグラフィー・乳腺超音波検査

※ご予約制になります。(土日祝日の前日時間外でのネット予約には対応しかねますので、ご注意ください。)
※当日は女性スタッフが対応させていただきます。

金額 各**3,850円**(税込) ※市検診の補助対象の方は金額が異なります。

WEB予約
はコチラ

ご予約・詳しい料金などのお問い合わせ

白岡中央総合病院：健診センター ☎0480-93-0662(直通)

窓口時間：月～金(9:00～17:00)/土(9:00～12:30) ※年末年始・祝祭日を除く



瑞宝章を受章しました

地域連携課所属の穂山さんが長年勤めた前職消防での功労が評価され、瑞宝章を受章しました。現部署では病院救急車D-ERの運転士を務めている穂山さん。患者さんファーストで地域医療に貢献します!とこれからの抱負を語ってくれました。



地域医療を考えるフォーラム

当院からの講演内容

- ・橋本院長:「白岡中央総合病院と地域医療—現状と今後—」
- ・森田診療部長:「地域のがん医療・緩和ケア 早く準備すれば、怖くない」
- ・高崎副看護部長:「地域のがん医療・緩和ケア 緩和ケアってなに?」



10月15日(土)に地域医療を考えるフォーラムが白岡市社会福祉協議会すみれ会主催にて開催されました。当院からは橋本院長、森田診療部長、高崎副看護部長が講演する側として、参加をいたしました。当日は会場である生涯学習センター(こもれびの森)に100名を超える方が参加され、講演内容に熱心に耳を傾け、メモを取られている姿を見ることができました。また、第2部として、がん治療・緩和ケア体験談も行われ、ご家族から貴重なお話を伺うことが出来ました。コロナ禍で開催できなかった、このような催しも徐々に増えてくるかと思えます。これからの地域医療について、皆様とコミュニケーションを図りながら、取り組んでまいります。

「埼玉県SDGsパートナー」登録について



当院のSDGs達成に向けた宣言書はこちら



SDGs達成に向けた基本的取組事項はこちら



2022年11月30日付で、「埼玉県SDGsパートナー」になりました。SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。その中で、埼玉県では「埼玉県SDGsパートナー」と称し、SDGsに自ら取り組むとともに、その実施内容を公表する県内企業・団体等を県が登録する制度を設けており、この度当院もこの趣旨に賛同し、埼玉県SDGsパートナーに登録申請を行いました。当院の理念である「安全で確実なわかりやすい医療」をもとに、病気を抱えながらも地域で生活を続けられるようサポートする生活支援型医療を提供することにより、SDGsの達成に貢献して参りますので、よろしくお願い申し上げます。